

 **Techno Medica**

**2024年3月期  
第2四半期決算説明会**

**2023年11月22日**

**代表取締役社長**

**實吉 政知**

1. 事業の概要
2. 2024年3月期 第2四半期決算
3. 2024年3月期業績見通し
4. 人的資本経営に向けた取り組み
5. 資本政策に関して

# **Techno Medica**

## **1.事業の概要**

社名	株式会社テクノメディカ / Techno Medica Co. , Ltd
事業内容	臨床検査用分析装置、医療機器の研究開発、製造、販売、輸出及び、 これら装置で使用する消耗品の製造、販売
事業所	本社、同第2、第3研究所、同第4ビル 研究開発センター、物流センター 支店 : 大阪、名古屋、福岡 営業所 : 札幌、仙台、北関東、甲信越、広島、松山 出張所 : 盛岡、金沢、岡山
海外販売拠点	台湾支店 (新北)
従業員数 (2023年9月末)	241 (70) 名、 派遣社員を含まず ( ) 内は、パート社員の人員を外数で記載

1987年	9月	神奈川県川崎市高津区にて創立
1988年	9月	全自動血液ガス分析装置の販売を開始
1991年	4月	自動採血管準備装置の販売を開始
1997年	3月	本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）
1998年	6月	本社第2研究所竣工 ⇒研究開発部門の充実
2004年	12月	ジャスダック証券取引所へ店頭登録
2005年	9月	本社第3研究所竣工 ⇒研究開発部門+物流の充実
2008年	3月	東京証券取引所市場第一部に指定
2009年	7月	本社第4ビル竣工 ⇒生産業務施設の充実
2012年	9月	ヘルスケアセンターを開設 ⇒ヘルスケア部門の研究開発強化
2019年	7月	テクノメディカ台湾支店の開所
2020年	7月	中型自動採血管準備装置・システムの販売開始
2021年	9月	新規開発品 採血受付システム・採血採尿受付システムの販売開始
2022年	4月 8月	東証「プライム市場」へ移行 血液ガス分析装置 新製品GASTAT-proの販売開始
2023年	10月	東証スタンダード市場へ移行

## 1. スタンダード市場選択の理由

当社は、プライム市場における上場維持基準のうち、「1日平均売買代金」及び「流通株式時価総額」の基準を満たしておらず、当該基準を満たすべく、各種の取り組みを進めていた。

しかしながら、期限までの達成には不確実性があり、上場廃止となるリスクをとることはできないとの判断に至り、スタンダード市場を選択することとした。

## 2. スタンダード市場の上場維持基準への適合状況

当社は、スタンダード市場の上場維持基準には、十分に適合している。

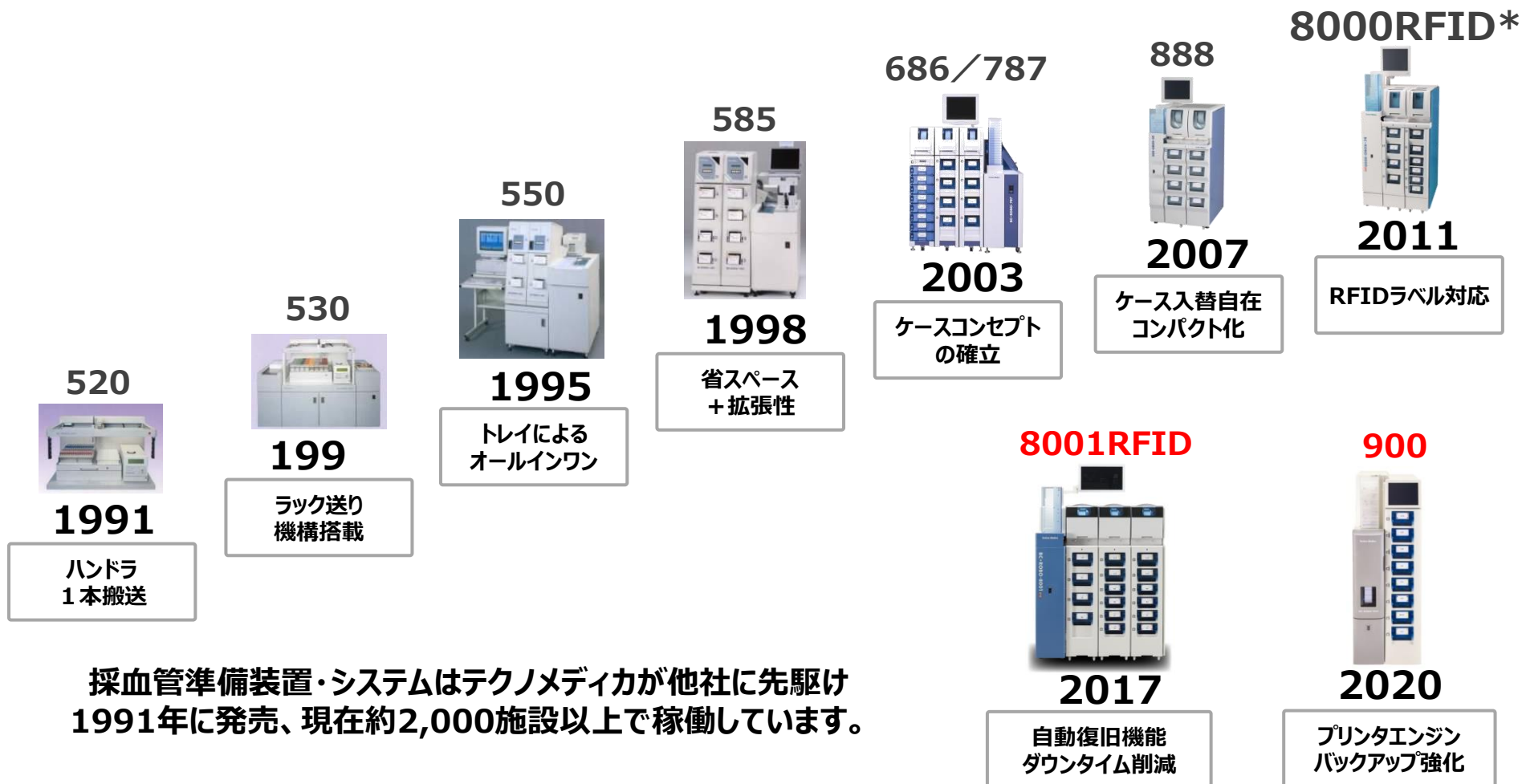
今後も、現状に即した市場区分で、これまで通り「2030長期ビジョン」を見据え、2023中期経営計画を達成することにより、持続的な成長戦略に取り組んでまいります。

● 品目別に見た主要製品

製品名				
採血管準備装置 ・システム	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS</p> <p>アンテナ ボックス 採血管 スタンド</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID</p>
検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>コンパクト血液ガス分析器 GASTAT-pro</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p>&lt;その他&gt; 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー 測定システム等</p>
消耗品等	 <p>センサーカード</p>	 <p>ラベル</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハルンカップ</p> <p>&lt;その他&gt; 採血管準備装置および 検体検査装置の保守等</p>

CONFIDENTIAL

● 採血管準備装置・システムの歴史



採血管準備装置・システムはテクノメディカが他社に先駆け1991年に発売、現在約2,000施設以上で稼働しています。

\*RFID(Radio Frequency IDentification) … ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム



<採血管準備装置・システム>

● 主力製品 BC・ROBO-8001 **RFID** について

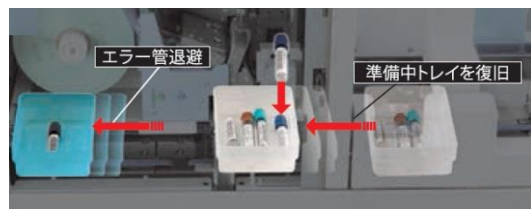
自動採血管準備装置  
**BC・ROBO  
8001**  
**RFID**

主



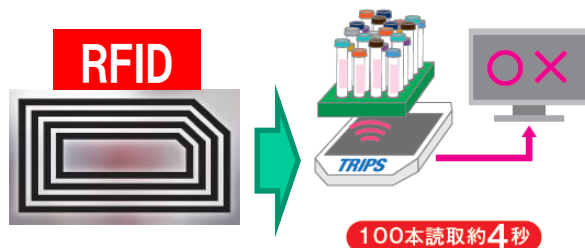
**IoTサポート**  
⇒ 自動起動機能 等

な



**自動復旧**  
⇒ 発行動作の停止を回避

特



**RFID連携強化**  
⇒ 検体トレーサビリティの強化

長



**自動学習**  
⇒ メンテナンス時期のアラート 等



<採血管準備装置・システム>

● 採血業務支援システム Assist More



採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータル的にサポートするオプション

▶ 採血レコーダーシステム (オプション)

採血中の動画と音声を同時記録

- 採血技術向上
- 採血トラブル時の検証データとして活用
- 採血部位・採血手順記録の精度向上

📊 アドミニストレータ (オプション)

採血カルテデータを分析・活用

- 患者様固有の採血傾向を患者サービス向上へ活用
- 日々の採血パフォーマンスを集計
- 採血室の管理業務を細かくサポート

✉ Webメール採血呼出通知 (オプション)

患者様の携帯電話・スマホへ直接採血呼出しメールを送信

- 待合に不在の患者様を呼出可能
- Web画面で採血室状況の確認が可能

<検体検査装置>

● 全自動pH／血液ガス分析装置

**GASTAT-700 Model**

- データの信頼性を追求
- 長寿命設計で、低ランニングコスト
- IoTによりトラブルの予兆を検知



● コンパクト血液ガス分析器

**GASTAT-Pro**

- コンパクト、高機能 新型装置
- 新開発センサカード
- 操作性をアップグレード



## <JACLaS EXPO 2023 へ新製品を出展>

(臨床検査機器・試薬・システム展示会：10月6～8日パシフィコ横浜で開催)

### 採血ソリューション

#### 採血業務支援システム

Assist More オプション機能

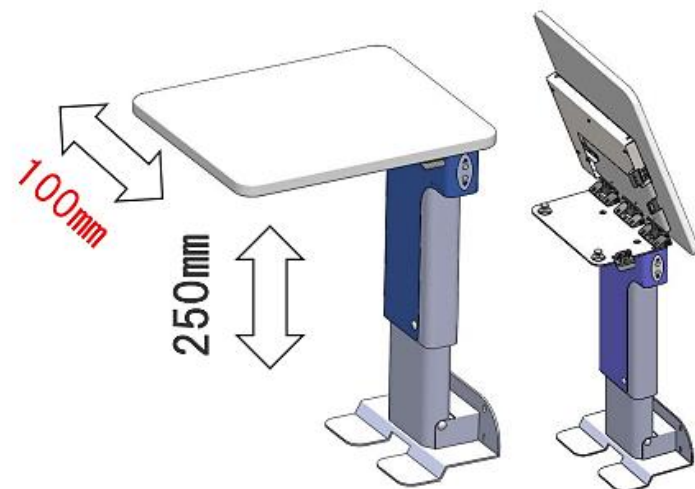
## クラウド採血待合システム Smart Lounge

1. 採血の待ち場所を自由に
2. 混雑状況の見える化
3. 待ち時間の不快を軽減
4. 一目で分かり易い画面デザイン



## NEW 多可動式電動採血台 (UD-FS)

従来の天板開閉式電動昇降採血台に天板スライド機能を追加





## <JACLaS EXPO 2023 へ新製品を出展>

(臨床検査機器・試薬・システム展示会：10月6～8日パシフィコ横浜で開催)

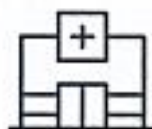
**NEW**

### ● 小型尿検体分取装置

中小規模病院様向けにキューブ方式を採用し、価格を抑え、装置の小型化を実現した尿検体分取装置。



キューブ方式により  
誤分取を防止



中小規模病院様に  
特化



導入しやすい  
サイズ・価格



ディスボチップ採用で  
キャリーオーバーゼロ



ラベル  
レイアウト機能



SDGsを  
考慮した設計





## **2. 2024年3月期 第2四半期決算**

売上高、利益とも、前年同期比プラス

営業利益率も12.9%で、前年同期比1.1ポイント増

(単位：百万円)

	2022年度 2 Q累計	2023年度 2 Q累計	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	3,772	4,056	284	7.5%
売上原価	1,897	1,995	98	5.2%
売上総利益	1,875	2,061	186	9.9%
粗利率	49.7%	50.8%	+1.1pts	
販管費	1,429	1,537	109	7.6%
営業利益	447	524	77	17.3%
営業利益率	11.8%	12.9%	+1.1pts	
経常利益	455	533	78	17.2%
四半期純利益	309	377	68	21.9%

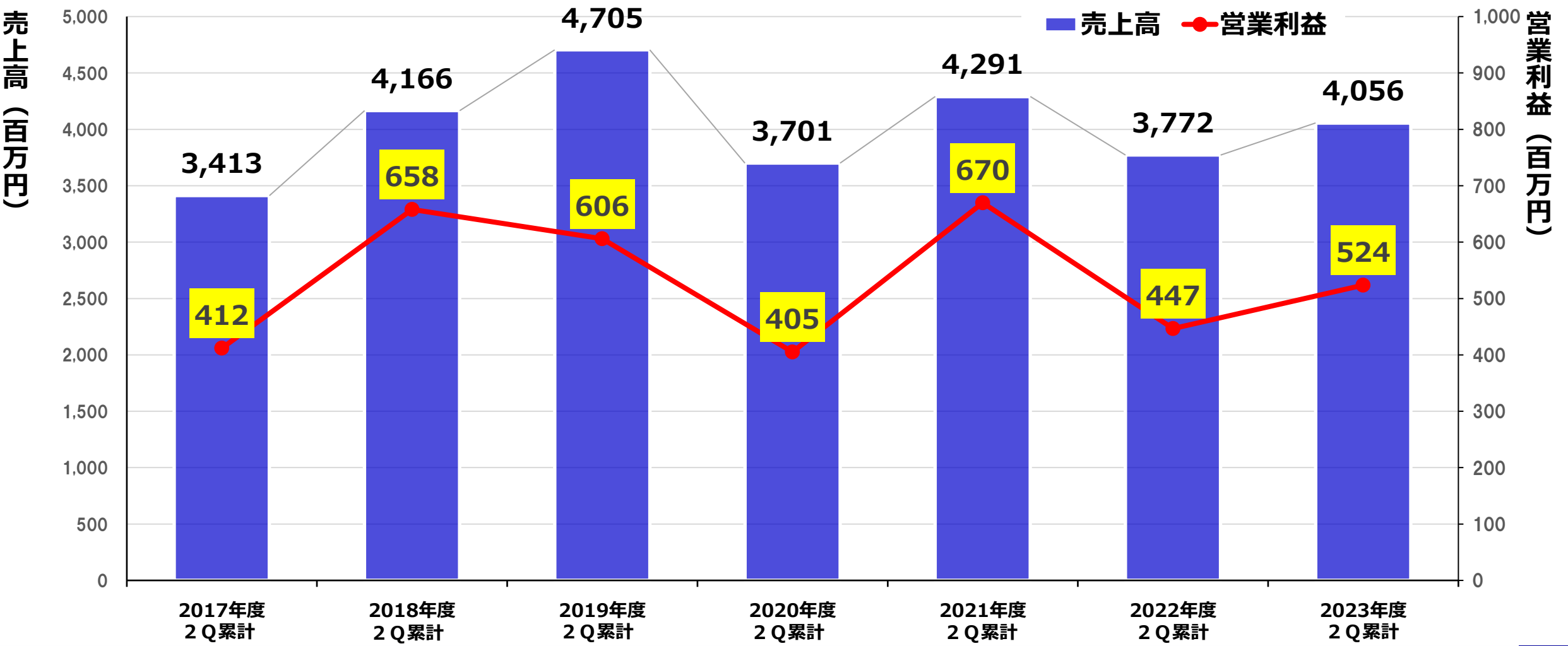
<b>売上高 増減要因</b>	<b>採血管準備装置・システム</b> ⇒国内は、大型機の販売案件が順調に推移 海外は、小・中型機の売上増加も、大型機の販売案件減少 ＜ 国内+17.1%増、海外△0.2%減 ＞
	<b>検体検査装置</b> ⇒国内は、主にハンディタイプの新型血液ガス分析装置の売上が伸長 海外は、デスクトップ型の血液ガス分析装置の売上が減少 ＜ 国内+23.0%増、海外△1.7%減 ＞
	<b>消耗品等</b> ⇒国内、海外市場とも底堅い需要継続 ＜ 国内+1.2%増、海外+22.3%増 ＞

<b>販管費 増減要因</b>	研究開発費、人件費、運賃等の増加により、109百万円の費用増加
---------------------	---------------------------------



# 第2四半期 売上高・営業利益推移 Techno Medica

前期22年度2Q累計の落ち込みから、今期23年度2Q累計は売上、営業利益とも回復



## 第2四半期 貸借対照表

- 23年9月末) ・資産合計は178億円で、前年度末比△16億円の減少 (売上債権△10億円、現預金△8億円、他)  
 ・負債合計は 22億円で、同△8億円減少 (買入債務△6億円、他)  
 ・純資産合計は156億円で、同△8億円の減少 (自己株式の増加△7億円、他)

(単位：百万円)

	23年3月末	23年9月末	増減		23年3月末	23年9月末	増減
流動資産	17,307	15,669	△1,638	流動負債	2,810	1,997	△813
現預金	11,750	10,917	△833	買入債務	1,500	918	△582
売上債権	3,574	2,527	△1,047	その他	1,311	1,080	△231
棚卸資産	1,866	2,166	+300	固定負債	246	250	+4
その他	117	59	△58	負債合計	3,056	2,247	△809
固定資産	2,136	2,147	+10	資本金	1,070	1,070	
有形固定資産	1,528	1,494	△34	資本剰余金	968	969	+2
無形固定資産	23	81	+58	利益剰余金	14,891	14,759	△131
投資その他	586	572	△14	自己株式	△542	△1,231	△689
資産合計	19,443	17,816	△1,628	純資産合計	16,387	15,568	△819
				負債純資産合計	19,443	17,815	△1,628

今期23年2Q累計について、現預金等は  $\Delta 8.3$  億円減少し、期末残高は109.2億円

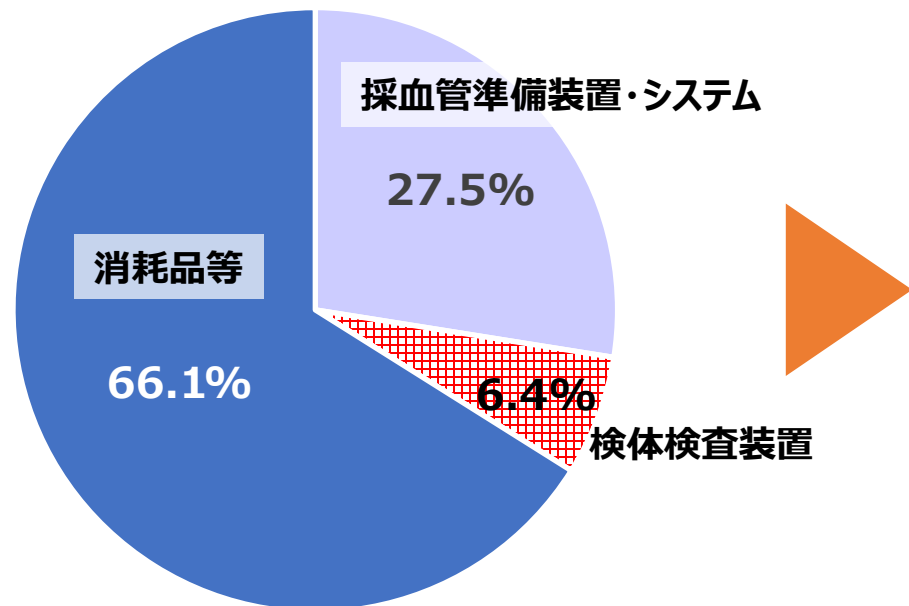
営業活動によるキャッシュフローは、運転資金の増加等により、前年同期に比べ  $\Delta 4.4$  億円減の4.7億円

財務活動によるキャッシュフローは、自己株式の取得等により、前年同期に比べ  $\Delta 7.3$  億円減の  $\Delta 12.3$  億円

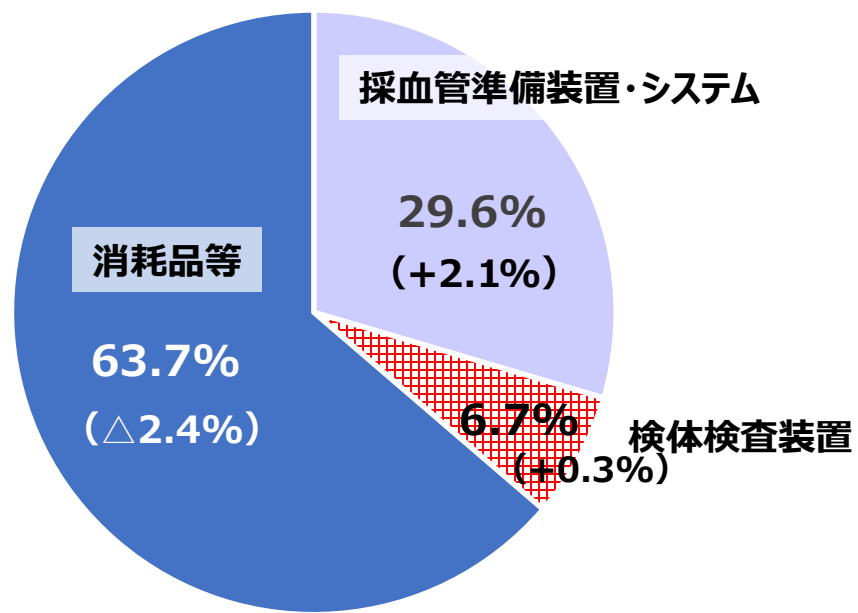
(単位：百万円)

摘 要	22年度 2 Q 累計	23年度 2 Q 累計	増 減
営業活動によるキャッシュフロー (A)	915	474	$\Delta 441$
投資活動によるキャッシュフロー (B)	$\Delta 69$	$\Delta 75$	$\Delta 6$
フリーキャッシュフロー (A+B)	846	399	$\Delta 447$
財務活動によるキャッシュフロー			
自己株式の取得		$\Delta 724$	$\Delta 724$
配当金の支払額	$\Delta 505$	$\Delta 508$	$\Delta 3$
小計 (C)	$\Delta 505$	$\Delta 1,232$	$\Delta 728$
現預金等増減 (A+B+C)	342	$\Delta 833$	$\Delta 1,175$
現預金等の期首残高	11,524	11,750	227
現預金等の四半期末残高	11,865	10,917	$\Delta 948$

22年2Q累計 売上構成



23年2Q累計 売上構成

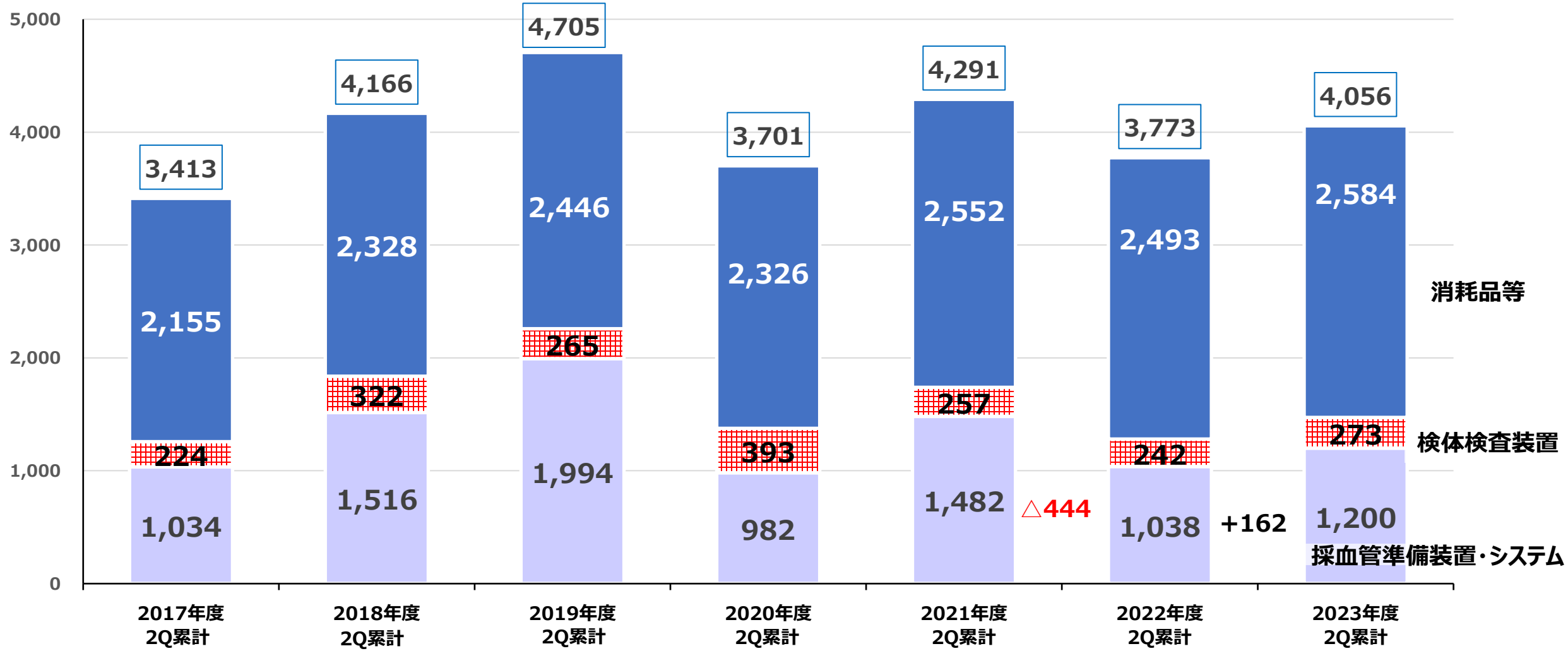


(金額：百万円)

品目区分	22年2Q累計	23年2Q累計	増減額	増減率
採血管準備装置・システム	1,038	1,200	162	15.6%
検体検査装置	242	273	31	12.8%
消耗品等	2,493	2,584	91	3.6%
計	3,773	4,056	283	7.5%

- ・2Q累計で、採血管準備装置・システム及び検体検査装置は、22年度で減少したが、23年度は回復
- ・消耗品等は、若干の増減はあるものの、堅調に推移

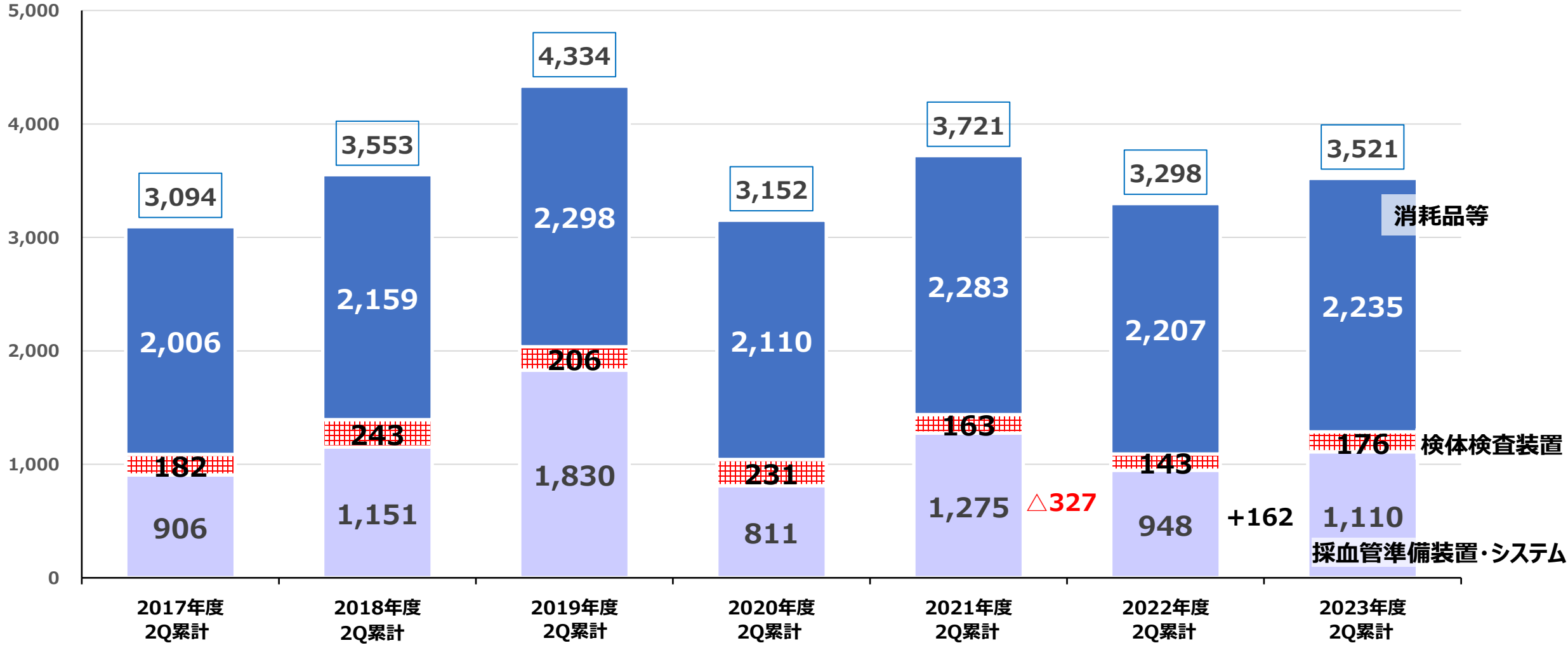
売上高  
(百万円)



第2四半期累計 **国内** 品目別売上推移 **TMC Techno Medica**

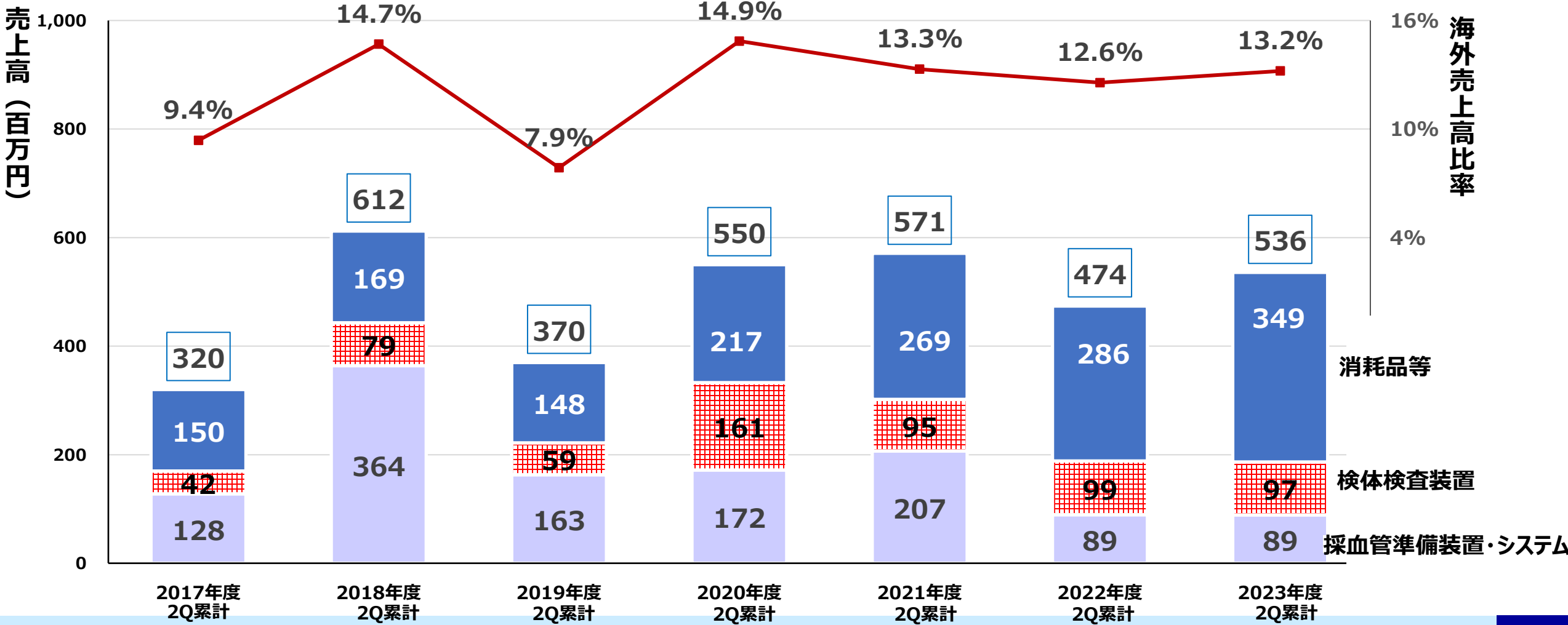
- ・2Q累計で、採血管準備装置・システム及び検体検査装置は、22年度で減少したが、23年度は回復
- ・消耗品等は、22年度に採血管の売上がなくなったため(仕入先供給停止) 減少したが、23年度は回復

売上高  
(百万円)



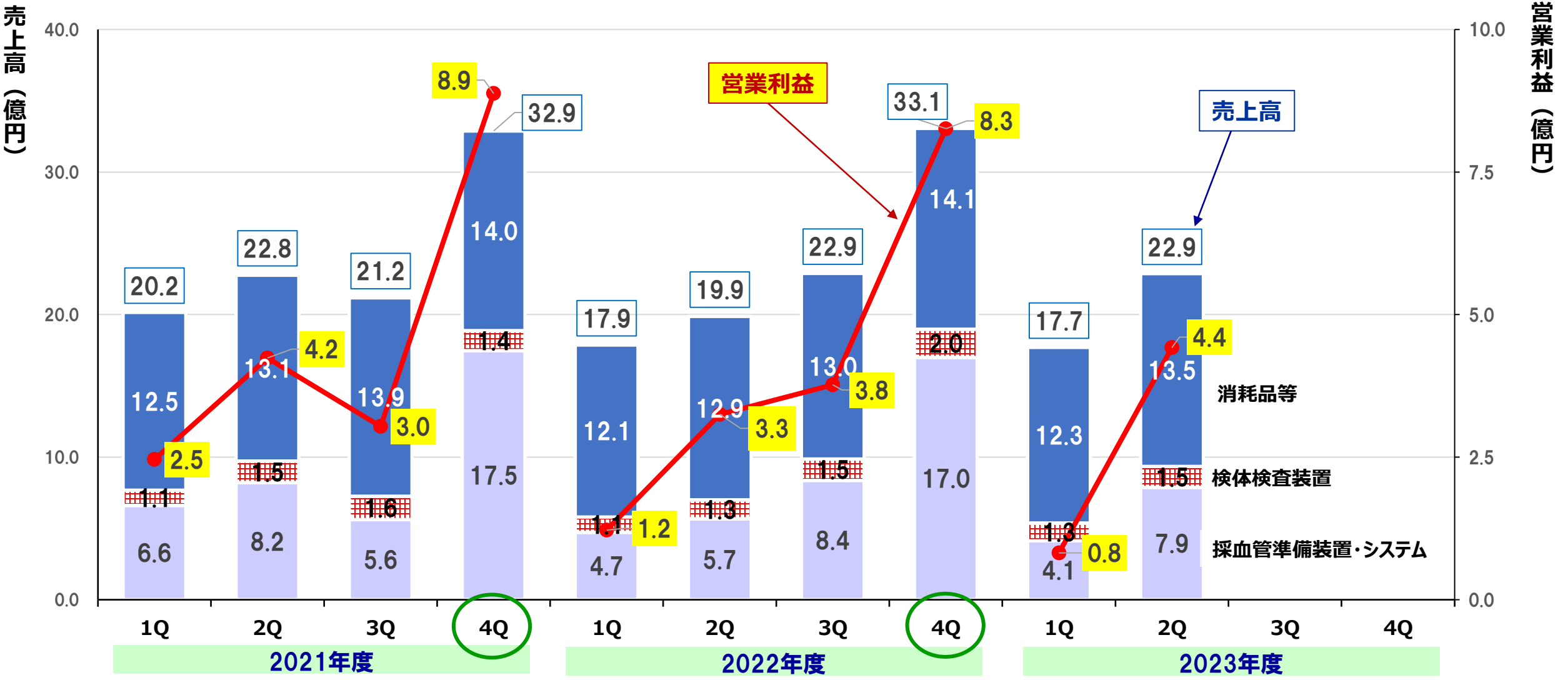
第2四半期累計 **海外** 品目別売上推移 **TMC Techno Medica**

2Q累計で、海外売上高全体は、前期減少したが、今期は回復。そのうち、消耗品等は、着実に増加しているが、採血管準備装置・システムは、22、23年と低調。検体検査装置も横ばいで推移。  
 海外売上高比率は、21年以降13%前後で推移



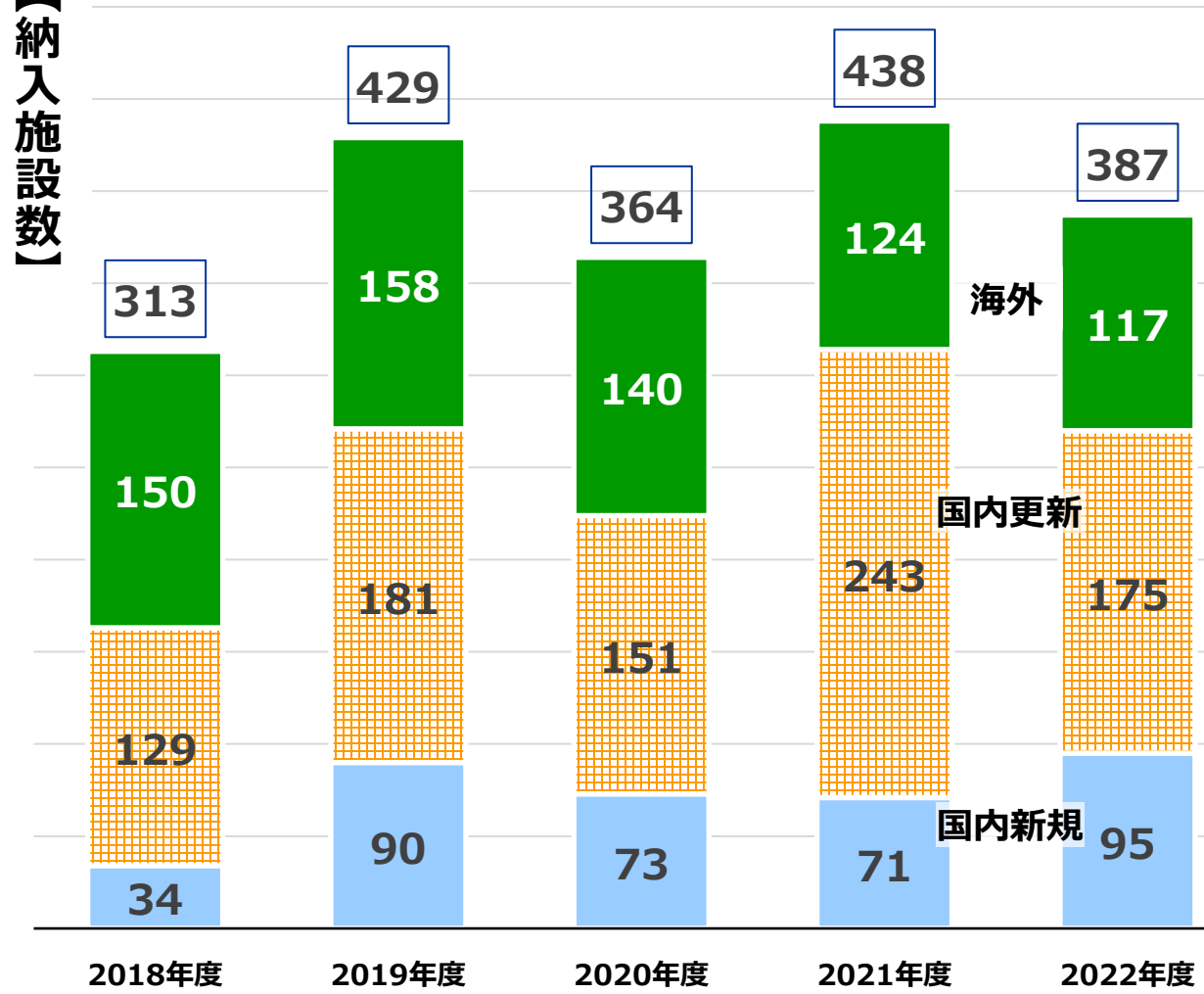
品目別売上高、利益 四半期ごとの推移

主力の採血管準備装置・システムの売上は、4Qに集中するため、全社の売上、利益とも4Q偏重となっている

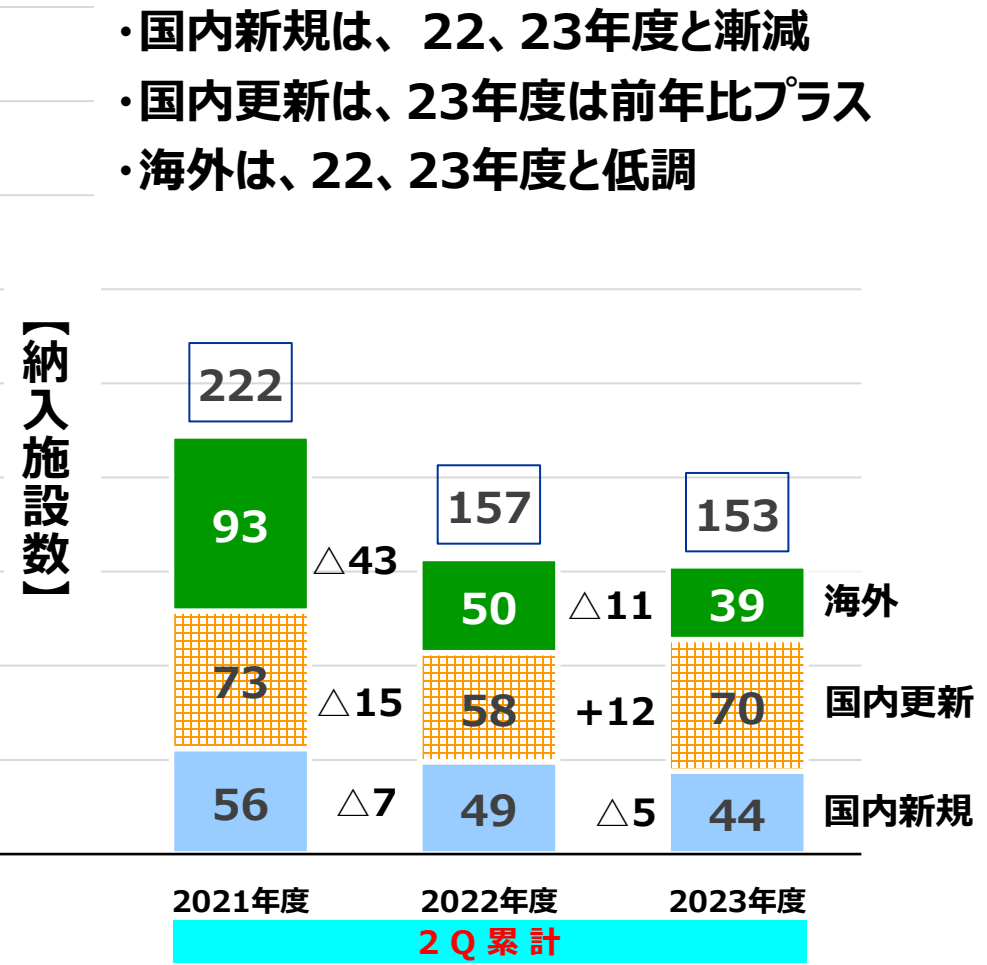


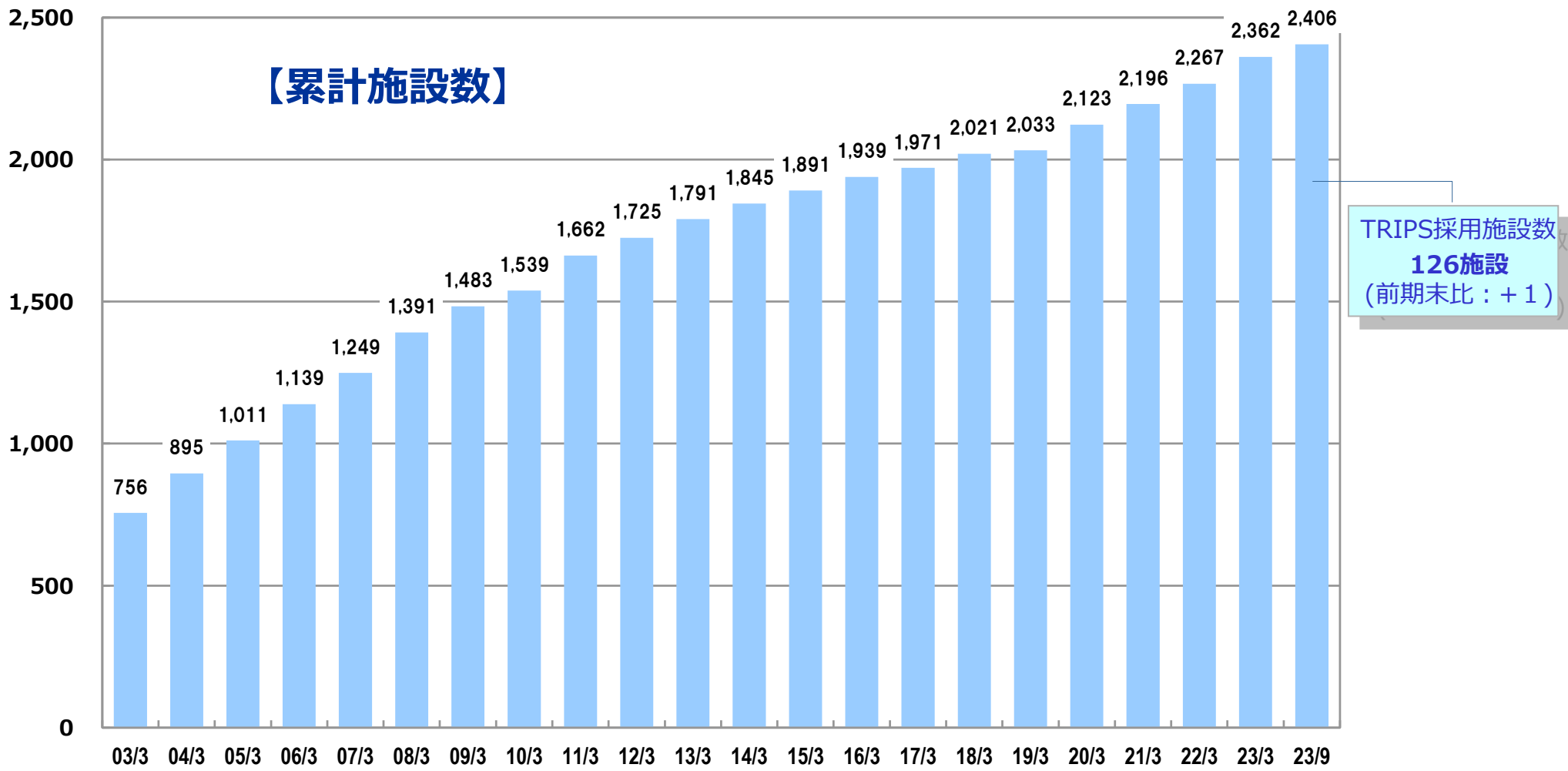


<納入施設数年度推移>



<2Q累計 納入施設数推移>







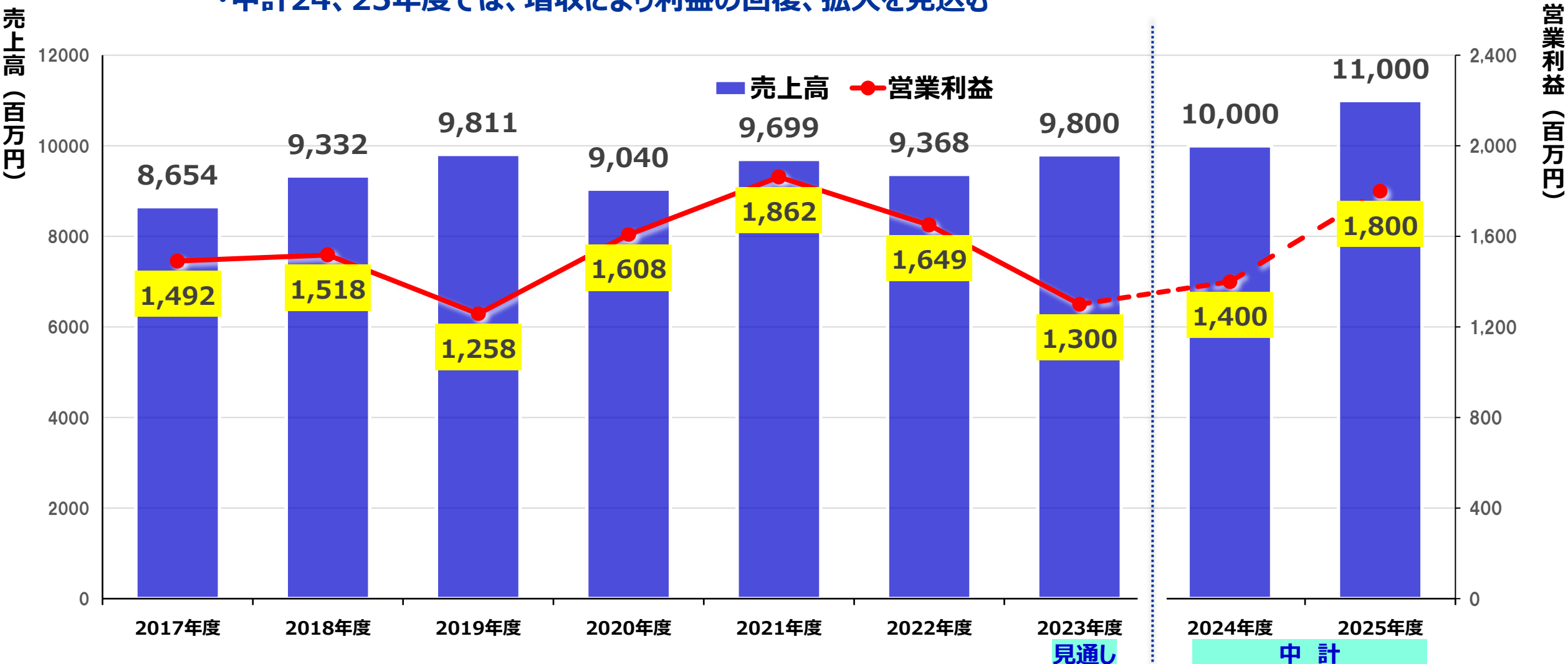
# **3. 2024年3月期 業績見通し**

売上高は、対前期+4.3億円の増収も、  
営業利益は、コロナ後の事業活動の活発化による販管費の増加で、  
対前期△3.5億円減益の見込み

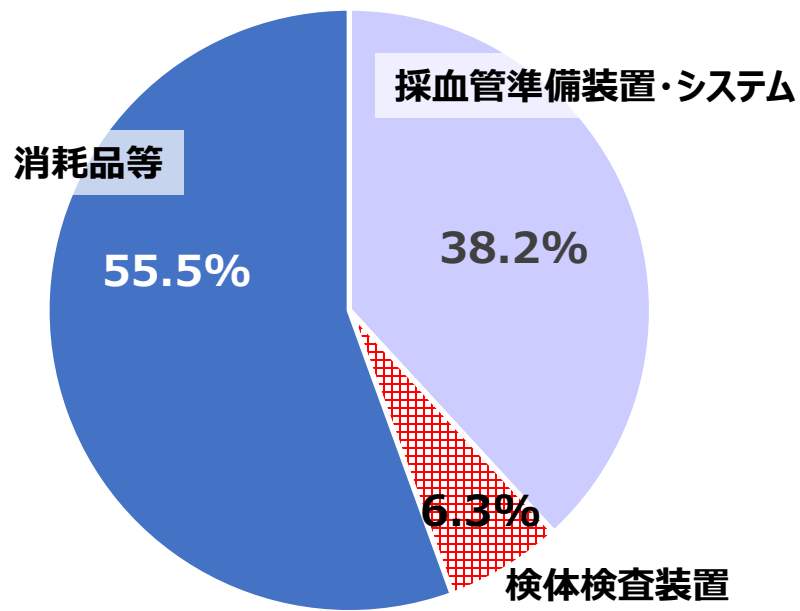
(単位：百万円)

	2022年度 実績	2023年度 業績見通し	前年比	
			増減額	増減率
売上高	9,368	9,800	432	4.6%
営業利益 営業利益率	1,649 17.6%	1,300 13.3%	△349 △4.3pts	△21.2%
経常利益	1,668	1,300	△368	△22.1%
当期純利益	1,151	900	△251	△21.8%

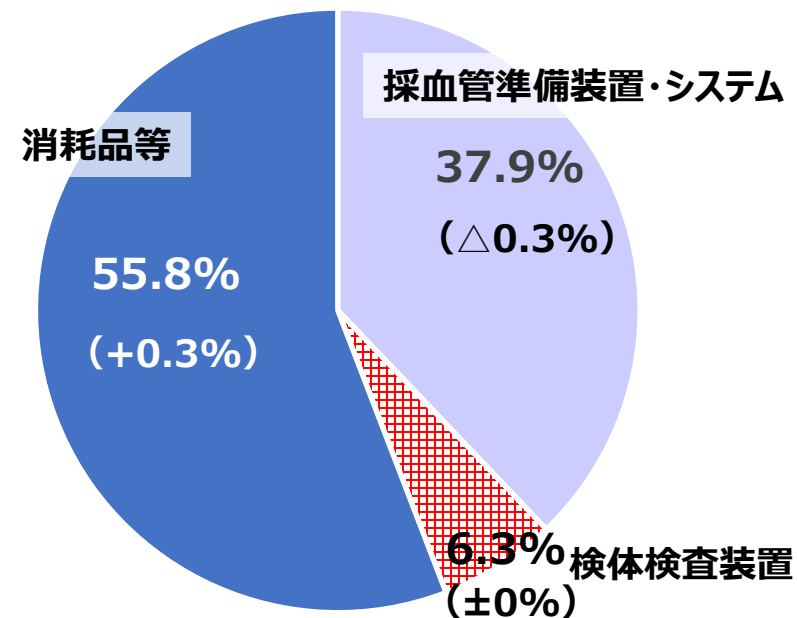
- ・23年度は、売上高は回復するも、営業利益は販管費の増加等により、22年度に続き減益の見込み
- ・中計24、25年度では、増収により利益の回復、拡大を見込む



2022年度 売上構成



2023年度見通し 売上構成



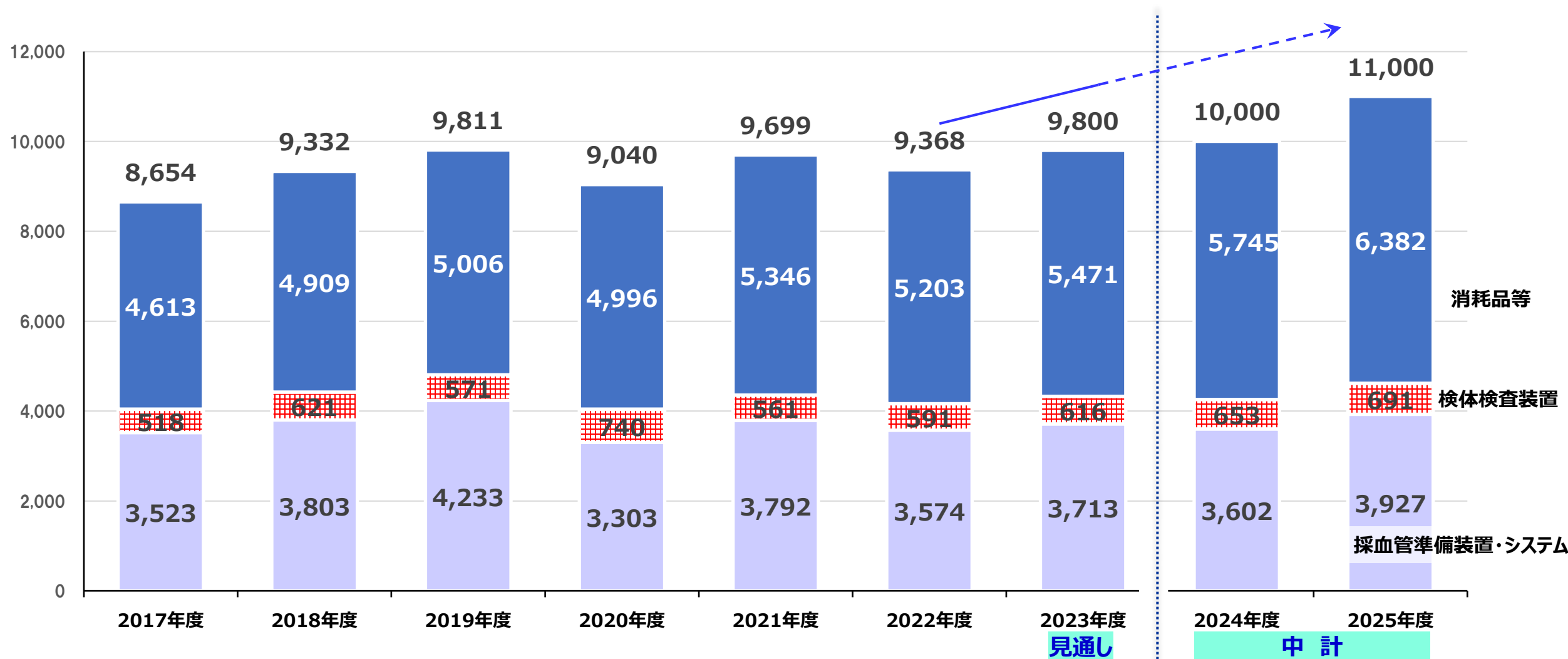
(金額：百万円)

品目区分	2022年度	2023年度見通し	増減額	増減率
採血管準備装置・システム	3,574	3,713	139	3.9%
検体検査装置	591	616	25	4.2%
消耗品等	5,203	5,471	268	5.2%
計	9,368	9,800	432	4.6%

# 品目別売上高推移

23年度は、いずれの品目も前年比増加の見込。24、25年度も消耗品等を中心に増収を見込む

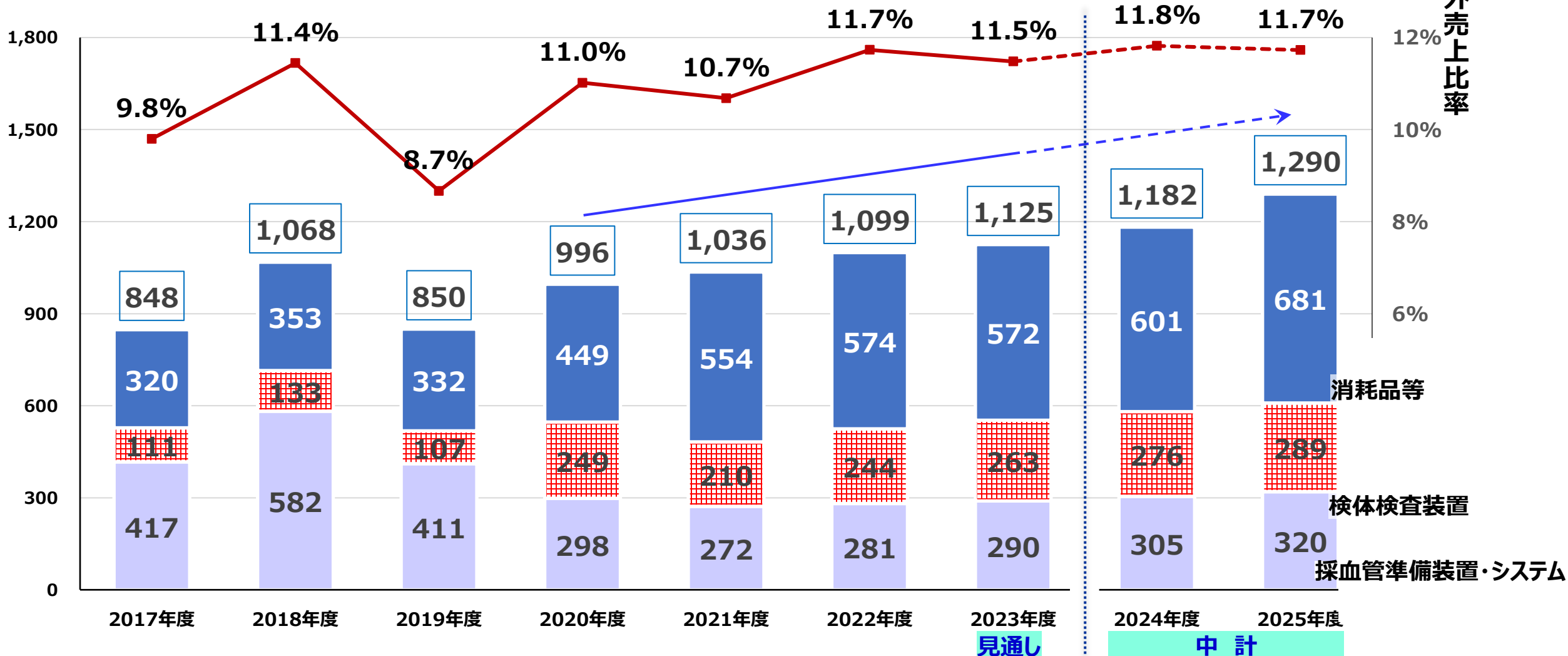
売上高  
(百万円)



# 海外 品目別売上推移

- ・海外売上高は、2020年度以降、消耗品等を中心に、着実に増加
- ・海外売上高比率は、20年以降凡そ11%台で推移

売上高  
(百万円)







## **4. 人的資本経営に向けた取り組み**

### ＜23中計の人材戦略に係わる重点課題と目標＞

重点課題	達成目標
1. グローバルな事業拡大及び新規事業育成 加速のための人材の確保・配置	[質] 戦略遂行に必要な人材が確保・配置されている [量] 2025年度末に必要な人員が充足されている
2. 経営理念及び23中計実現に向け 「成長と自立」を目指す「能動的人材」の育成	社員が主体的かつ挑戦的に課題・目標を設定し、 達成に向け真摯に取り組んでいる
3. コンプライアンス（法令遵守）の徹底	全社員が会社の成長発展を目指して法令を遵守し、 役割を果たしている

- ・4月1日付で人材開発室を設置
- ・中計人材戦略の重点課題の目標達成、及び従業員のエンゲージメント向上に向け、  
以下の方策を実施



次 頁

## 4. 人的資本経営に向けた取り組み（2/2） Techno Medica

### ◆ 戦略課題達成に向けた主な方策と進捗状況

方策	進捗状況
<p>人材開発室を4/1に設置</p>	<p>【役割】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中計人材戦略の具体的な運用、実行</li> <li>・年度ごとに人材戦略に係わる重点課題の実行計画を立案、実施</li> </ul>
<p>23中計に基づく人材採用計画の実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発職志望の人材向けに、11月にインターンシップを開催</li> </ul>
<p>5月に人材開発室による、組織風土調査を実施</p> <p>目的：従業員が満足感をもって働くことができるよう、仕事に関する意識を吸い上げ、組織風土やその課題を明らかにする</p>	<p>調査結果を踏まえ、以下の対応策を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、キャリア支援</li> <li>・福利厚生充実化</li> <li>・役職初任者の外部研修を実施</li> <li>・中途社員への採用時研修を下期より実施</li> <li>・出張手当、転勤・単身赴任の処遇等規則の改定</li> <li>・育児休業制度の啓発、推進</li> </ul>
<p>従業員への株式付与</p>	<p>昨年に続き、社員への譲渡制限付株式の付与を実施 10月に決定、12月に払込。株式付与総額 123千株、261百万円</p>



## **5. 資本政策に関して**

## 1) 株主への利益還元方針 (1/3) Techno Medica

当社は、株主の皆様への利益還元を重要施策の一つと位置づけし、経営環境、業績に裏付けられた成果の配分と、内部留保の決定を行うことを基本方針としています。

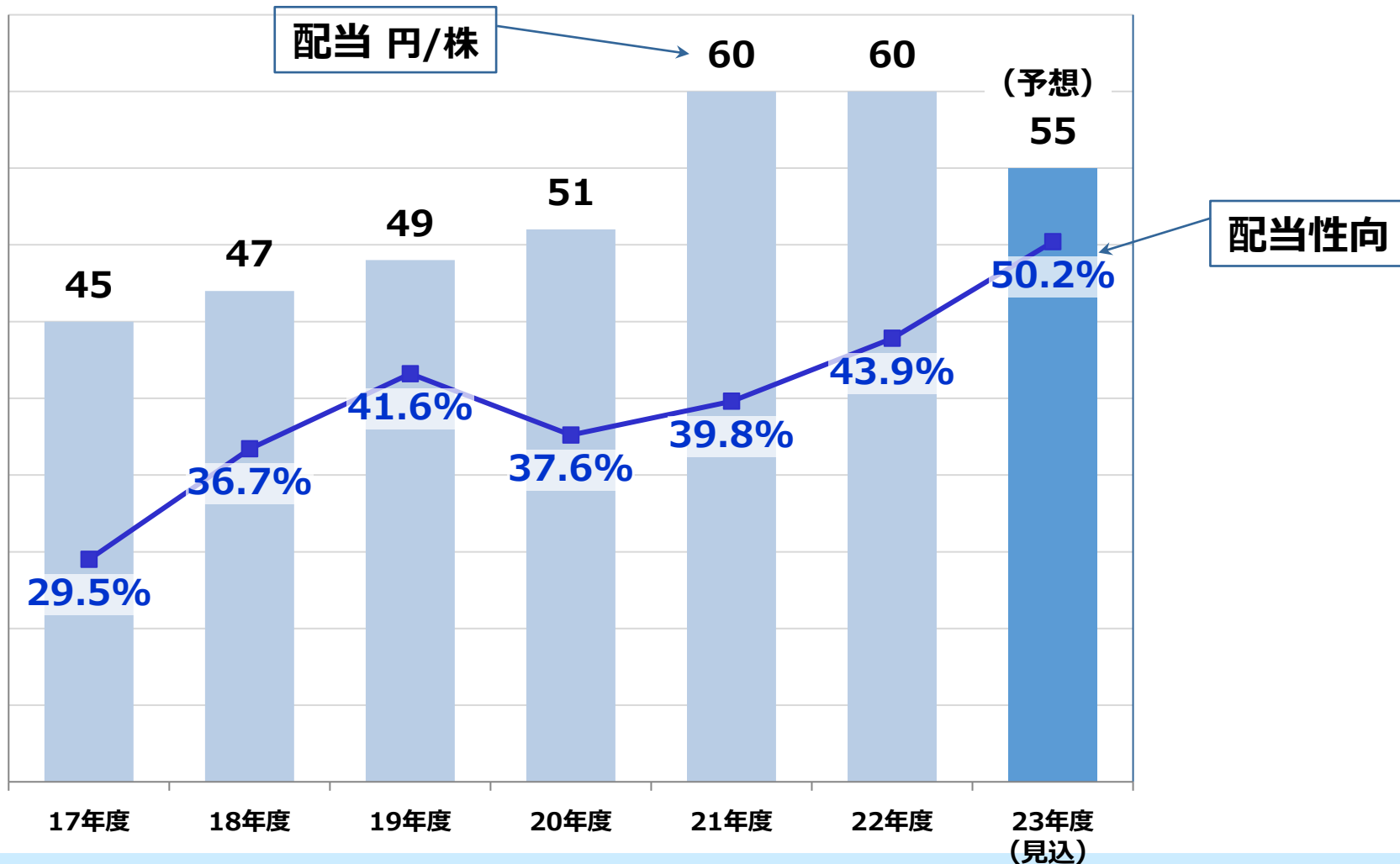
これまで、安定配当を維持するとともに、配当性向30%~40%を目安に実施して参りました。今後、中長期的には、配当性向30%~40%の目安に加え、総還元性向50%を実現することを目指してまいります。

自己株式の取得については、今後も資本効率改善の一環として、必要に応じて実施し、社外の要請に応じていく所存です。

1) 株主への利益還元方針 (2/3)  Techno Medica

配当は、21、22年度と60円/株で推移、配当性向は22年度で44%

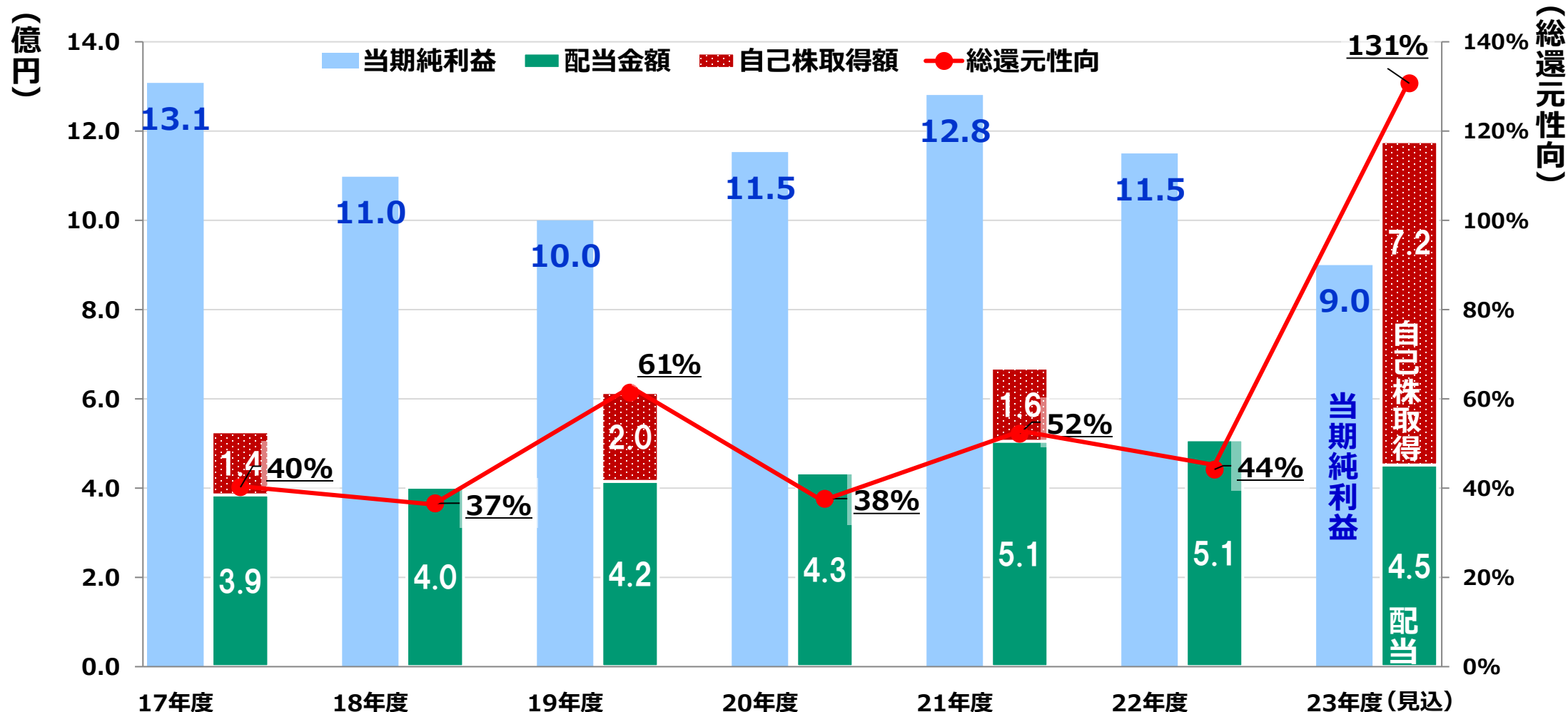
23年度見込は、減益に伴い、配当を55円/株としているが、配当性向は50.2%



# 1) 株主への利益還元方針 (3/3) Techno Medica

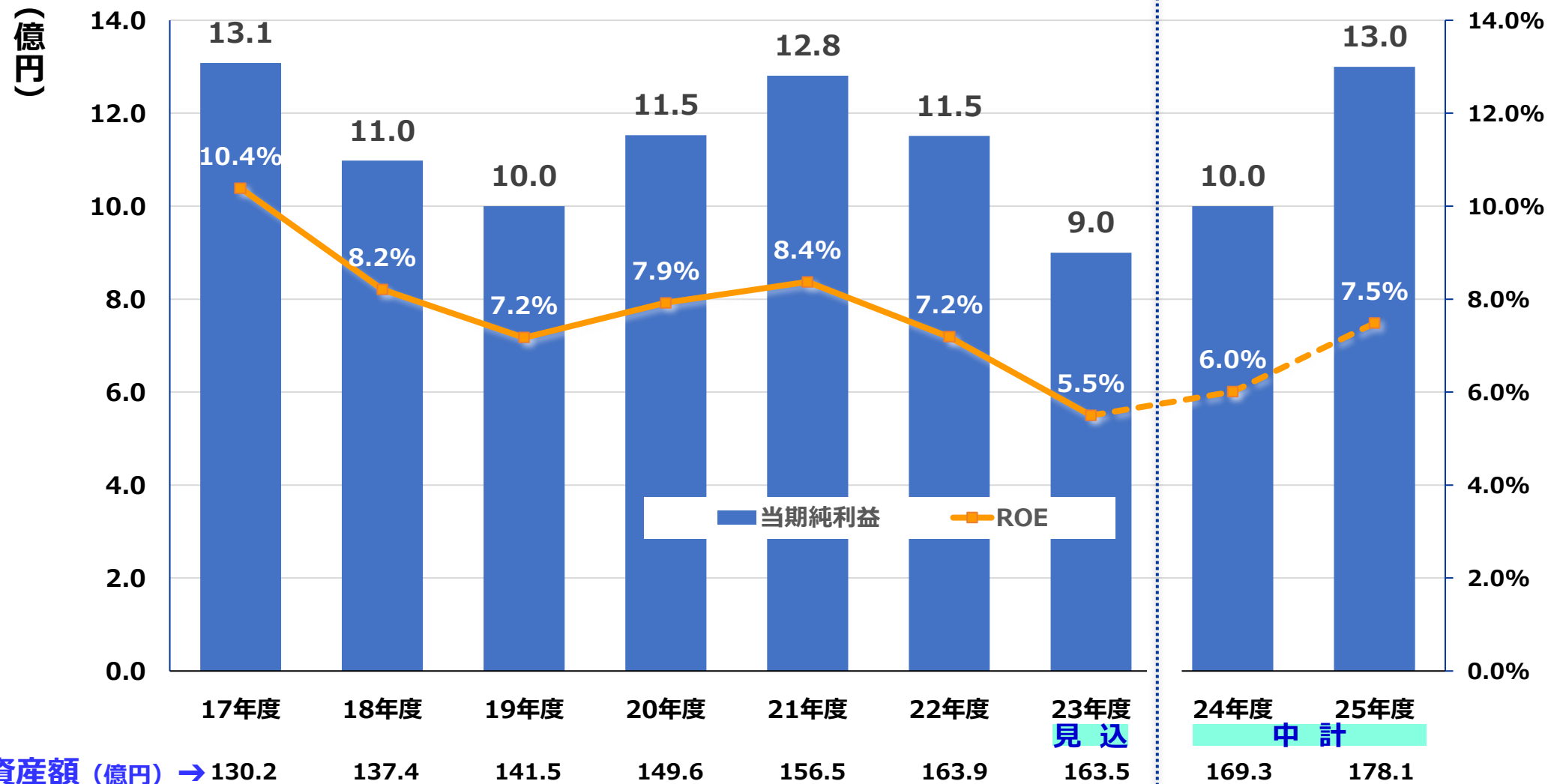
【総還元性向の目標】 総還元性向は50%を目指す

23年度は、5月に自己株式7.2億円を取得したことにより、総還元性向は131%の見込



## 2) ROE推移

- ・ROEは、資本コスト（≒凡そ2%）を上回っているが、23年度は当期純利益の減少に伴い、5.5%まで減少の見込
- ・中計24、25年度では増益により、ROEは回復の見込み





## ＜注意事項＞

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。

**ご清聴ありがとうございました**